

A-1 若手パワーアップ小委員会の設立

活動日程 平成 27 年～

主催 企画委員会

企画者 企画委員会(小林潔司委員長)

活動内容

① 設立の背景

土木学会創立 100 周年記念事業として各支部において実施した「若手土木技術者の交流サロン」の 2015 年度以降の継続実施に際し、活動成果等の情報共有をはかる組織として設立され、支部推薦委員と本部推薦委員から構成するものとされました。

② 小委員会の目的

学生や研究者、行政、公共企業体、ゼネコン及びコンサルタントなど多様な機関等に所属する①若手土木技術者の学会活動の活性化、ひいては、②学会全体の活動の活性化のため、学会事業の諸策を検討、提案し、その具体化を図ることを目的としています。

成果・課題

- 執行部 4 名、支部選定委員 7 名、本部委員 5 名で始動
第1回幹部会:平成 27 年 6 月 18 日開催
第1回委員会:平成 27 年 7 月 22 日開催
- 小委員会の設立趣旨
【廣瀬会長】
若手の活躍する場が少ない。若手理事など、活躍の場を提案してほしい。
【中村企画委員会新幹事長】
若手が土木学会をうまく使うには？ JSCE2020 を見据えた提案を期待する。
【高野企画委員会前幹事長】
実際に動く立場にある支部をうまく巻き込んでほしい。

A-2 活動方針の提案 パワーアップ対象の分類

活動日程 平成 27 年 10 月 23 日

主催 (委員会活動)

企画者 橋本麻未

活動内容

①パワーアップの方法？

- 直接的パワーアップ:若手会員を増やす
- 間接的パワーアップ:土木のイメージアップ

②パワーアップ対象

- 本部・支部のイベントに参加可能な会員
- 本部・支部のイベントに参加不可能な会員
- 就職を機に会員を継続しない非会員
- 高校生以下の子ども・オカン・高校以下の先生など非会員

成果・課題

「若手会員数を増やすにはどうすればよいか」

STEP1:「会員数が減っている」現象を把握し、原因を考える。

→単に土木系就職者が減っているのか？土木系就職者中の土木学会員比率が下がっているのか？

→入会者が少ないのか？退会者が多いのか？

STEP2:土木学会に入会することのメリット・入会によるインセンティブを明確にする。

→「イベントがあるから土木学会の会員になろう！」と思うか？

→ネットワーク形成？知識の吸収？

→物を買う時と同じ,「12,000 円以上の価値があるかどうか？」

STEP3:メリット・インセンティブを広く知ってもらう方法を検討する。

「土木のイメージアップ」

誰が？どうやって？

A-3 「若手」活動事例の収集（ASCE・風工学会）

活動日程	平成 27 年 9 月	主催	研究討論会
参加者	当小委員会メンバー、山口敦(東京大学)		

活動内容

① ASCE の若手会員グループの活動を調査

・ASCE のウェブサイトおよび若手会員グループハンドブックから活動内容を調べた。

② 風工学会の活動を調査

・風工学会の山口敦氏が風工学会の若手スクールの取組みを紹介した。

成果・課題

成果：以下を研究討論会で発表して終了した。※添付資料なし

- ① ASCE の若手会員グループ
 - ・ ASCE の若手会員グループは、各州の Section/Branch で組織され、若手の活動が奨励されている。
 - ・ 若手会員グループでは、若手に役立つ話題の収束、職業能力の形成、リーダー育成、学生支部の活動促進などを実施している(写真 1)。
- ② 風工学会の若手スクール
 - ・ 2009 年より若手会員の交流を目的として、「若手スクール」を発足した。
 - ・ 普段、交流する機会のない若い会員間での交流の場となった(写真 2)。
 - ・ 学術的な内容について、「偉い」先生がいない場で若い会員同士で真剣に議論できる場となった。



写真 1 リーダーシップの向上に関するシンポジウム
(引用元
<http://www.asce.org/event/2015/younger-member-leadership-symposium/>)



写真 2 東北大学流体研究所の見学

添付資料

なし

本部

A-4 掲示板・Twitterによる土木学会活動に関するアンケート

活動日程 平成 27 年 8～9 月

主催 本部

参加者 橋本委員長、光安委員、伊東

活動内容

①掲示板

研究討論会前に、議題に合わせて意見を募集した。

Q1:あなたにとって土木学会とは？

Q2:土木学会が与えられるメリットは？

②Twitter

- ・研究討論会当日、討論会の意見を募集した。
- ・委員会側で、議題に合わせて論説抜粋を紹介した。

成果・課題

①掲示板

成果

- ・匿名であったため、様々な意見を得られた。
- ・文字数制限がなく、好きなだけ意見を書き込めた。

課題

- ・関係者以外への掲示板の周知方法がなかった。
- ・それぞれの意見は書き込まれたが、相互の議論には発展しなかった。

②Twitter

成果

- ・登壇者の意見に加えて、様々な意見を同時発信できた。
- ・委員会関係者以外からも書き込みもあった。

課題

- ・アカウントのない人が参加できない。
- ・ハッシュタグ等使い方の説明が必要。



討論会での情報発信の様子

A-5 全国大会 2015 研究討論会

活動日程 平成 27 年 8～9 月

主催 本部

参加者 全委員

活動内容

「若手土木技術者による学会活動活性化と交流促進」の展望

1. 小委員会の活動方針
2. 支部活動の報告
 - ①北海道支部「Visit 事業」
 - ②西部支部「ツタエルドボク Cafe」
3. 他学会の取組
風工学と風力エネルギー分野における若手の取り組み
4. 海外学会の取組
ASCE(American Society of Civil Engineers)の取組例
5. パネルディスカッション
 - ①あなたにとっての土木学会は？
 - ②土木学会が与えられるメリットは？

成果・課題

成果

- ・報告とディスカッションを組み合わせ、多様な情報を発信した。
- ・会場からも発言および Twitter を通じて広く意見を得る事ができた。
- ・現会長、次期会長からのご意見をいただく事ができた。
- ・広い年齢層にわたって、多数の聴講者があった。
- ・アンケートも様々な意見の書き込みがあった。

課題

- ・討論会の時間スケジュール的に発言する人が限定されてしまった。



A-6 理事会テーマディスカッション

活動日程 平成 27 年 11 月 20 日

主催 (委員会活動)

出席者 添付資料参照、橋本

活動内容

理事会のテーマディスカッションで若手パワーアップ小委員会の活動内容を紹介。理事各位よりご意見等をいただいた。

成果・課題

下記のご意見をいただいた。

①関西支部 河内支部長：土木学会として、会員を増やすターゲットをどこにするのか？ ゼネコンをターゲットとするのであれば、この方法を考えねばならない。ゼネコンは学術とかけ離れているところもあるが、土木は実務と切り離せないため、ゼネコンは無視できない。この点を深掘りして欲しい。

②中国支部 出路幹事長：若手は忙しいという意見が支部から出ているこういった状況でどう活動するか、忙しい人々をどう巻き込んでゆくのか知恵が欲しい。特に公務員は出席できない。遠隔参加も手段の一つではあるが、できれば活動に参加できるような方法を考えるべき。

③北海道支部 北谷幹事長：Visit は企画段階から学生が行っているの、関心が高くなっている、こうした学生は、卒業後も土木学会に関与する機会が多い。

④田代次期会長：活動を積極化するには、若手の活動を周囲が評価すべきである。活動結果をきっちりと公表してゆくと、忙しくても若手はきっちりとやる。物事を具体化して企画すると若者はのってくる。

⑤廣瀬会長：地方の現場から、実務レベルの表現・評価の仕組みをつくるのが良いのではないか。自分たちがやっていることを世間に知ってもらいたいという人は大勢いる。IT などを活用して、広く表現できる仕組みを作る必要がある。技術相談コーナーなど、シニアが支援できる仕組みを作る必要もある。

⑥磯部前会長：若手間・支部間の交流は活性化に繋がる。最近高知では日本学術会議主催の市民公開講演会を実施した。若手が高知で何か行うということであれば、私が案内するといったこともやってもよい。

⑦前川(秀)企画担当理事：コンサルの若手会を見ても自主的に参加するのは業務上難しい。上からの発声で仕事の一環として活動してもらうのも、取り掛かりとしては良いのではないか。

A-7 各委員からの活動提案

活動日程 平成 27 年 11 月

主催 本部

参加者 全委員

活動内容

活動提案

今後の活動に向け、下記の分類毎に活動内容を募集した。

- ①会員の直接参加(イベントなど)
- ②会員の遠隔参加(web 整備など)
- ③非会員(土木系)の参加
- ④非会員(市民)の参加

成果・課題

成果

多数の意見を集約できた。実現に向けて進められている提案は下記の通り。

- ・インフラカードゲーム
- ・若手勉強会
- ・作業着コンテスト
- ・子どもイベント

課題

- ・特になし

添付資料

なし

A-8 廣瀬会長との対談（学会誌掲載）

活動日程

平成 28 年 2 月 26 日

主催

本部

参加者

橋本委員長、伊東幹事長、中島副幹事長、嶋澤

活動内容

廣瀬会長との対談

- 長きにわたって数多くの事業・学会活動を経験された、廣瀬典昭土木学会第 103 代会長が思う「若手」土木技術者について、若手PU小委員会メンバーと対談形式にて思いを取り交わした。

成果・課題

【成果】

廣瀬会長の学生時代から社会人時代にかけての時代背景とともに、現在の若手技術者の働き方に対してざっくばらんな意見交換を行うことで、我々に必要な企画力と行動力について明確となり、また、若手PU小委員会活動がし易くなる後押しを頂いた。

対談内容については、「会長が語る、働く若手技術者へのメッセージー今若手に必要なのは企画力と行動力ー」と題して、土木学会誌 2016 年 6 月 Vol. 101 へ掲載。

添付資料

なし

本部

A-9 討論会テーマ選定討論

活動日程 平成 28 年 8～9 月

主催 本部

参加者 全委員

活動内容

全国大会 研究討論会テーマ選定

討論会テーマについて各 WG から案を出してもらい、本年度テーマを決定する。

成果・課題

成果

- ①学会運営 WG
「土木学会に対する本音からより良い学会にするための方策を考える」
→土木学会に対する不満を出し合い、改善につなげる
- ②若手活動 WG
「若手技術者が集まる講習会を考える」
→受け身ではなく、主催者として講習会を提案する
- ③対外活動 WG
「土木を学べる“おもちゃ”を考えよう」
→土木の楽しさを伝える、将来的な企業コラボに向けた提案

以上、3テーマから多数決により②を本年度テーマとして決定した。

添付資料

なし

A-10 ゼネコン辞めた人ヒアリング

活動日程 平成 28 年 12 月～

主催 (委員会活動)

参加者 橋本麻未、伊東佑香

活動内容

土木系の仕事を辞めた人へのヒアリング実施

- ヒアリング1件:ゼネコンを辞めた経緯をブログにアップしていた方

成果・課題

【成果】

- ゼネコンを辞めた人の経緯を詳細にヒアリング
 - ・ 残業時間が正当に申請できない。(上限が設定され申請させてもらえない)
 - ・ データやツールの活用ができない。(判子が必要なためスキャンしたものを保存、自動写真取り込みなどのツールが不統一で使用できない、そもそも内業の効率化を考えている人がいない、電子納品でも元データがなくトレースなど無駄な作業が発生する、情報そのものの価値が理解されていない、設計照査での三者協議資料が不毛、など)
 - ・ 事業が無計画である。(発注者からの条件変更が多く、設計図書などの品質が低すぎる、など)
 - ・ エンジニアは知的生産をしているはずで、そこに対する価値を見出す必要がある。土木はエンジニアに対する対価が低い。
 - ・ 淘汰されるのが健全な状況であるが、土木業界にはそのような考え方がない。

【今後の予定】

- 今回は入社1年以内に辞めた事例
⇒入社1年以内、入社3年以内、10年以内、それ以降と4ケースに分け、協力いただける方を探してヒアリングを実施する。
- 若い人が土木から離れる原因を探り、土木業界全体の問題点を浮き彫りにする。

添付資料

なし

A-11 若手パワーアップ塾

活動日程 平成 28 年 10 月～

主催 (委員会活動)

企画者 橋本麻未、伊東佑香、山口哲司(委員外)

活動内容

【目的】

- ①若手土木技術者の視野を広げ、若手リーダーを養成する。
- ②「若手が参加したくなる勉強会」に向けた試行をおこなう。
- ③若手同士のつながりを形成する。

【受講対象者】

- 委員会メンバー
- ゼネコン有志メンバー
- 「次の土木界を担う意気込みを持つ人」として公募したメンバー

【開催形式】

講義＋ディスカッション＋懇親会

成果・課題

【成果】

	開催日時	講師	講義タイトル	keywords
第1回	2016/10/14(金)	木村 亮氏 (京都大学大学院教授)	ローテクとハイテクで 土木に新たな世界を	発想の大転換 / QPMI / ノーベル団体平和賞
第2回	2016/11/28(月)	天野玲子氏 (防災科学技術研究所 審議役)	つなぐ防災 ～変わりつつある災害対応～	実装化 / トータルマネジメント / インフラ海外輸出
第3回	2017/1/24(火)	河瀬航大氏 (㈱フォトシンス 代表)	新プロダクトの生み出し方と イノベーションの鍵	熱量 / PMF / ブラックスワン

参加者: 20～30 人程度

【試行】

本企画は、2016 年度全国大会討論会「[若手技術者が集まる講習会を考える](#)」で得られた意見の多くを試行した講習会となっている。

- 業界の裏話、最先端の技術、自己啓発的な内容など、若手が聞きたい内容の講義内容。
- グループ作業(ディスカッション)、懇親会など、技術者同士交流可能。
- 動画配信、HP や SNS での結果報告による情報開示。
- web アンケートによる実施方法の改善。

【今後の予定】

- 3 カ月から 4 カ月に 1 回の頻度で継続。
- メンバーは 1 年間固定。

添付資料

なし

A-12 継続教育(CPD)制度への要望

活動日程 平成 28 年度～

主催 本部

参加者 佐竹委員

活動内容

小委員会での継続教育(CPD)制度に関する紹介

CPD 制度の紹介を行い、委員の利用状況を整理した。

成果・課題

【利用状況】

小委員会メンバー ○人中△人が利用
(内訳、コンサル、大学等、ゼネコン、発注者……)

【意見】

- ・ 技術者として目指す将来像に向けての必要な学習体系が整理させていない。

【今後の活動予定】

- ・ 平成 29 年度に引き続き CPD 制度への理解を深め、検討を行い、継続教育実施委員会への意見発信を目指す。

A-13 市民普請選考委員

活動日程 平成 28 年 11 月 23 日

主催 本部

参加者 橋本麻未

活動内容

市民普請大賞への選考委員派遣

市民普請大賞の選考委員に「若手パワーアップ小委員会 委員長」として委員長の橋本が参加した。

成果・課題

【成果】

- これまでは「若手」が組織的に選定されることは少なかったが、土木学会内での「若手」の代表として、組織として対応できるようになった。

B-1 1st JSCE-CICHE ジョイント WS への参加

活動日程 平成 28 年 5 月 22 日

主催 国際センター

参加者 岩井裕正

活動内容

- ◆ 土木学会の海外との学術・技術交流を支援する国際交流グループは、その中に各国・地域グループを持ち、より効率的に、効果的な交流活動を図っている。
- ◆ 台湾グループでは、台湾分会と連携して、協定学協会である中国土木水利工程学会(Chinese Institute of Civil and Hydraulic Engineering: CICHE)や関連組織、大学、研究機関等と情報交換を目的とし、2016年5月台湾は高雄市で第1回となるJSCE-CICHE ジョイント WS を開催した。
- ◆ テーマは「Sustainability and Disaster Reduction」であり、日本のエネルギー資源開発に関する地盤工学が担う役割について発表を行った。

成果・課題

-成果-

- (1) 協定学協会である中国土木水利協定学会(CICHE)と初めてのジョイントワークショップを盛会のうちに終えることができた。これは、JSCE-CICHE の継続活動の第一歩であり、今後、本WSを継続的に開催していくための案や、次回第2回目のジョイント WS 開催に関する大筋案を話し合うことができた。
- (2) 第2回目は、主に学生を含む若手土木技術者や女性の土木技術者が交流する場としたい旨が提案された。その準備として、WS終了後に行われた交流会では、台湾の博士課程の学生や若手教員と知り合うことができた。

-今後の課題-

- (3) 若手土木技術者や女性エンジニアをどのようにして集めるか。台湾土木も次世代の担い手不足に悩んでいる。

添付資料

なし

B-2 官公庁と土木学会の関わり

活動日程

—

主催

(学会運営 WG)

企画者

高橋輝好

活動内容

【背景】

- 地方自治体所属の委員については、基本的に組織内で活動が認められていない。
- 全国大会へは、休暇を取得して、交通費・参加費・宿泊費を自腹で支払っての参加となる。
- 「土木学会」は複合的な学会組織であるため、より詳細な情報が得られ、深い人脈が形成される専門学会の方が重要度が上がると考えられている。

【活動の方向性】

- 地方自治体所属の委員が公費で参加できるよう、組織や一般の方々に認めていただけるには、どうすればよいか？
- 地方自治体所属の土木学会員を増やすには、どうすればよいか？

成果・課題

具体的方策が見つからず、活動中断。

添付資料

なし

B-3 仕事の充実感に関するアンケート

活動日程 平成 28 年 9 月～10 月

主催 学会運営 WG

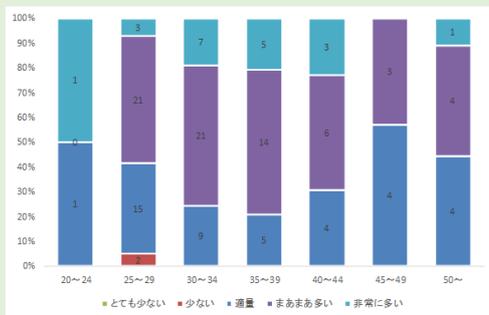
参加者 若手 PU 小委員会 委員

活動内容

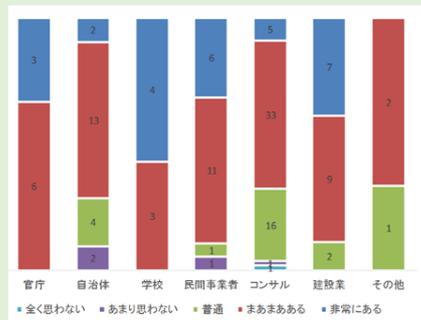
土木業界の若手技術者が現在の仕事(業務)に対しどのように感じていて、どのような業務に改善を望んでいるかを明らかにするため、アンケートを実施した。

アンケート結果(仕事量と充実感について)

20代後半～30代後半までは仕事量が多い傾向があったが、それでも仕事に対し、充実感を持っている人が多いことが分かった。



年代別仕事量に対する感じ方



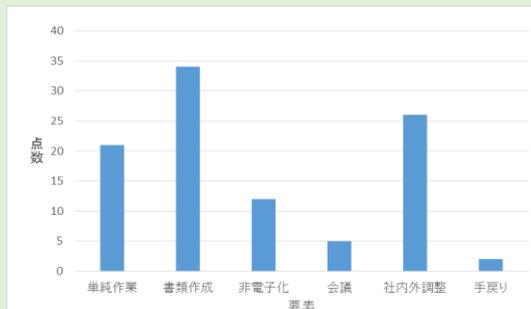
業種別仕事の充実感

成果・課題

効率化・削減を望む業務について

「効率化または削減できる業務」の特徴を把握するため、これらの業務を①「単純作業」、②「書類作成」、③「非電子化」、④「会議」、⑤「社内外調整」、⑥「手戻り」の6要素に分類した。

→②の書類作成が「効率化または削減できる業務」の中で一番点数が高い要素であるとの結果を得た。



効率化または削減できる業務の分類(集計結果)

添付資料

なし

B-4 工事書類削減に関する検討（国交省中部地方整備局へのヒアリング）」

活動日程

平成 29 年 1 月

主催

学会運営 WG

参加者

清水リーダー、片山サブリーダー

活動内容

B-3 でのアンケートの結果、若手技術者は、契約等の書類作成について効率化・削減を望んでいることが明らかとなったことから、工事書類を 20%削減することに成功した中部地整にヒアリングを行い、今後、各自が工事書類の削減に取り組むための参考とすることとした。

中部地整の取り組み

- ・3 種類の仕様書(共通仕様書、特記仕様書、追加特記仕様書)の内、独自で改定が可能な、「特記仕様書」の改定を通じて工事書類の削減が可能か検討
- ・土木工事特記仕様書改訂勉強会を組織

削減できた書類のポイント

- ・特記策定当時の目的が薄れたもの
- ・必要となきに見ればよい資料
- ・中部地方整備局のみの書類

削減できなかった書類の傾向

- ・法律上の縛りがあるもの
- ・出来形や品質管理に関わるもの

中部地整の現在の取り組み

- ①全国へ工事書類削減を水平展開
本省より各地整へ事務連絡を发出し、全国へ水平展開。
- ②部内で「工事書類減らし隊」を結成
引き続き勉強会とともに工事書類の削減に取り組む。
- ③工事書類の様式の標準化
周辺自治体等へのヒアリングを通じて、様式の統一について検討している。
- ④ASP(情報共有システム)等の IT 技術の導入
監督職員の確認・立会記録をタブレットを使いデータに直接書き込むなど、ASP を利用した現場のペーパーレス化を推進する。

若手に期待すること

IT 技術については、若手の方が飲み込みも早く、頭もやわらかく自由な発想が期待できるので、若手の意見を吸い上げていきたいとも思料している。

成果・課題

なし

なし

B-5 工事書類削減に関する検討(発注者・受注者の問題意識)

活動日程 平成 29 年 2 月～

主催 学会運営 WG

参加者 学会運営 WG 委員

活動内容

受発注者が抱える工事書類削減に係る課題を明らかにするために、
①工事フロー(発注～引渡しまで)の整理
②上記を踏まえた課題出し(各委員)を行った。

成果・課題

①工事フロー(発注～引渡しまで)の整理

添付資料のとおり、工事フローの整理を行った。

②上記を踏まえた課題出し(各委員)

発注者側

- 【業者選定】技術提案方式は、発注者が求める技術が提案されているか？受注者負担が増えるだけでは？
- 【積算】発注者として積算スキルは保持すべき「技術力」か？
- 【品質】専門業者施工→受注者チェック→発注者チェック(全数 or 抜取)は、回数を増やしているだけか？施工不良時、責任はどこが取るべきか？
- 【設変】設計変更の回数が多い。原則、発注図面を変更してからでないと施工できない。そうなると金額協議で時間がかかり、工程を圧迫している。
- 【安全】発注側は施工の安全管理にどこまで関与するか？
- 【検査】検査書類が多い。未だ紙ベースでの管理。

受注者側

- 【設変】設計・図面作成を行う区分が不明確であり、受注者の負担が大きい。設変の回数が多すぎる。
- 【品質】検測簿と写真の重複があり、受注者の負担となっている。
- 【安全】安全管理に関する書類が増えている。一つ事故が起きると追加されるのみで減る方向になることがない。
- 【工程】年間稼働率が多い。完全週休 2 日制に向けた工程管理への道筋を付けてほしい。
- 【検査】膨大な紙書類の提出をなくして電子化して欲しい。

C-1 英国土木学会香港支部(ICE)訪日コーディネート

活動日程

平成 28 年 7 月

主催

国際センター
& 当小委員会

参加者

小委員会メンバー10名、ICEメンバー22名

活動内容

① 鹿島建設 外環道市川中工事見学

躯体施工を見学し、既存の国道や鉄道に配慮した施工を学んだ。

② 東京工業大学 Workshop, Welcome party を開催

東工大、ICEの双方で発表して意見交換し、東工大のラボツアーも実施した。

③ 清水建設 技術研究所見学

清水建設の技術研究所を見学し、過去から最新の研究事例を学んだ。

④ 東京都中央清掃工場見学

中央清掃工場の運転状況や環境技術を学んだ。

成果・課題

成果: 各訪問先で海外の若手技術者と交流することができた。

課題: 受け入れ体制の整備が必要(事務局の役割分担) ※添付資料なし



写真1 鹿島建設 市川中工事



写真2 東工大 Workshop



写真3 清水建設技術研究所

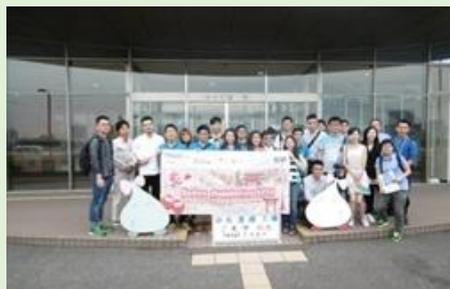


写真4 中央清掃工場

添付資料

なし

C-2 若手技術者が技術交流する場の企画

活動日程	平成 28 年 5 月	主催	若手活動 WG
参加者	若手活動WGメンバー		

活動内容

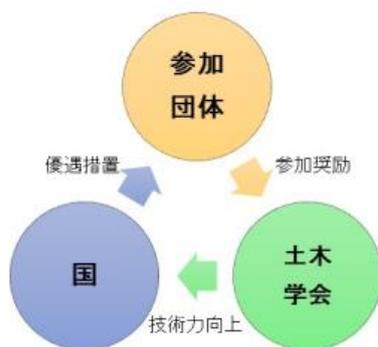
① 若手技術者が継続的に交流する場を検討

- ・産官学で交流するサイクルについて検討
- ・大枠の概念を議論

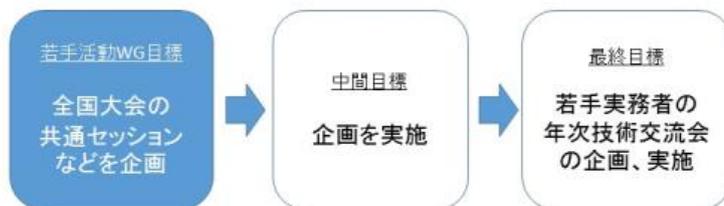
成果・課題

成果: 学会運営 WG「土木技術のリノベーションを考える若手の集い」へ
※添付資料なし

若手実務者が継続的に交流する場の創出に向けて



- ・ 土木学会
若手実務者の技術力向上
⇒若手実務者が技術交流する場を提供
- ・ 国
若手技術者の技術力向上を促進
⇒参加団体への優遇措置
- ・ 参加団体
技術交流会への参加を奨励
⇒参加者の確保



添付資料

なし

若手活動WG

C-3「若手技術者が集まる講演会を考える」グループワークデモ

活動日程 平成 28 年 8 月

主催 若手活動 WG

参加者 若手活動WG、対外活動WG、広報担当、幹部

活動内容

① 研究討論会に向けてグループワークのデモ実施

- ・デモにより当日の進め方を確認
- ・進行にあたって工夫が必要なことを議論
- ・当日の役割分担を決定

成果:デモにより、グループワークの具体的な進め方を把握し、当日の班分けの方法(出身地方で分ける)などを考案した。 ※添付資料なし

成果・課題



写真 1 グループワークデモの様子

C-4 全国大会 2016 研究討論会

活動日程

平成 28 年 9 月

主催

若手 PU

参加者

若手PUメンバー、討論会参加者

活動内容

① 若手PU活動報告

廣瀬会長との対談、ICE訪日対応、バックロゴデザインなどを報告した。

② グループワーク

様々な出身地や異なる世代の技術者が参加して議論した。

③ 話題提供

将来ビジョン特別小委員会の伊藤昌明氏が、同委員会の足跡や活動内容について紹介した。

成果・課題

成果：委員も含め合計 62 名が参加した。出身地別に5つのグループに分かれてグループワークを行い、内容、形式、宣伝、その他の項目に分けて、若手が集まる講習会について議論した。

課題：研究討論会で得られた成果をいかに実現するかが課題となった。 ※添付資料なし



写真 1 グループワークの様子



最優秀チームの皆さん

討論の様子

北海道・東北・中国 G『講演会は出会い系』 最優秀

内容	<ul style="list-style-type: none"> ・業界のうら話。仕事・働くこととは。 ・失敗談を聞く機会。 ・最先端の技術に関する講演。
形式	<ul style="list-style-type: none"> ・TV,ネット配信などでも公開する。 ・一か所に集まる必要はない ・集まって議論形式。受け身な姿勢を打開。
宣伝	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSを通じて宣伝。 ・プラタモリなど有名なTV番組に取り上げてもらう。 ・講習会の評価。食べログのような。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・講習会参加に参加してTポイントを貯める。 ・講演会で人と話す機会を増やす。 ・講演会は出会いの場。

図 1 最優秀グループの提案

添付資料

なし

C-5 ブラタシロ

活動日程

平成 29 年 2 月

主催

ブラタシロメンバー

参加者

ブラタシロメンバー、田代会長

活動内容

① 田代会長との対談企画の検討

若手の提案する講習会の実現へ向けて田代会長との意見交換を目的とした企画を検討した。

② 田代会長と宮ヶ瀬ダム見学&対談：ブラタシロ

今後の土木技術のあり方をテーマに、宮ヶ瀬ダムの所長であった田代会長と宮ヶ瀬ダムを見学した(「ブラタシロ」を合言葉)。

③ 学会誌に投稿

ブラタシロメンバーで土木学会誌への投稿を計画、分担執筆

成果・課題

成果：宮ヶ瀬ダム見学から当時の建設技術や思いを学んだ。また、田代会長との対談で、今後の土木技術、土木技術者のあり方について議論できた。これらについてとりまとめ、学会誌 2017 年 6 月号に投稿した。

課題：今回のような「現場見る企画」を継続する体制の整備。 ※添付資料なし

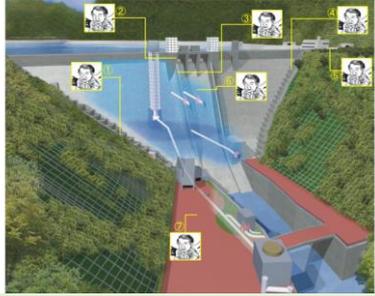


図 1 宮ヶ瀬ダム見学の足跡



写真 1 堤体下部と天端からの景色



写真 2 堤体内見学



写真 3 集合写真

添付資料

なし

D-1 インフラカードゲームの作成

活動日程 平成 28 年 4 月～

主催 対外活動 WG

参加者 光安、嶋澤、田ノ畑、近藤、中山

活動内容

- 防災・減災カードゲームの作成
昨今、国土交通関連予算の縮減等に伴い、限られた予算の中で効率的にインフラの維持管理、防災、減災対策が必要となっている。
このような背景を踏まえ、市民に対しインフラの重要性、防災対策等の必要性について理解を広めることが重要と考えられることから、ゲーム形式で遊びながら学べる「防災・減災カードゲーム(仮)」を作成することとした。

成果・課題

【ゲームの内容】(検討中)

- 防災・減災カードゲームは、発生する様々なイベント(災害等)から自分の街に設置されたインフラを守るため、対策カードを限られた予算の範囲内で整備し自分の街のインフラを守るというシミュレーション形式で防災・減災の大切さを楽しみながら学べるカードゲームである。(別添参照)
- 何が発生するか予測がつかないイベントに対して、自分の街のインフラを守るために効果的な対策(事前対策 or イベント発生後の応急復旧)ができるかどうか、勝敗を分けるポイントとなる。
- カードが示す意味をわかりやすくするため、色分け、アイコン、簡素な図形で表現した。
- それぞれのカードに効果があるカードをそのカード内に図示することで、スムーズなゲーム進行を可能にした。
- 詳細なルール等については、次年度以降検討を進める予定である。

【今後の展開】

- カードゲームの対象者(小学生、中学生、高校生等)を検討し具体的なゲームルールを検討。
- ゲームルールが固まり次第、小規模なイベント内(例:新潟県との連携イベント、土木学会全国大会でのイベント等を想定)で一般の方に遊んでもらい、意見等をいただきながら今後の展開について検討を行う。

D-4 トミカ展示見学

活動日程 平成 28 年 6 月

主催 対外活動 WG

参加者 光安

活動内容

全国大会で当小委員会が開催するセッションでコラボしてくれる団体の候補を探す目的でトミカを対象として展示見学、意見聴取を行った。

- トミカ×BMW
タカラトミーと BMW のコラボによるこども向けのプレイランドが BMW の新たな販売拠点である BMW 東京 BAY に期間限定(7/9～7/10)でオープン。
⇒玩具メーカーであるトミカと自動車ディーラーとの異色のコラボ事例ということで、展示見学、意見聴取を行った。



成果・課題

【今後の関わり方】

特にトミカの社員がいる感じはなく、ミニカーやコースがトミカから提供されているだけ。むしろ、ミニカーは BMW とミニ限定になってしまっているので、子どもからするともっと多くの車種がいた方が喜ぶのではないかと思う。

一方で、土木の素晴らしさを伝えるために、プラレール自体や付属品(道路、沿道施設)といったおもちゃをトミカに大量に借りるだけ借りて、イベント内容は当小委員会で検討するといったやり方もあり得ると思った。



添付資料

なし

D-5 東京学芸大こども未来研究所ヒアリング

活動日程

平成 28 年 6 月

主催

対外活動 WG

参加者

光安

活動内容

全国大会で当小委員会が開催するセッションでコラボしてくれる団体の候補を探す目的でこども未来研究所を対象として展示見学、意見聴取を行った。

- 東京学芸大こども未来研究所
こどもに関わる「ひと」、「こと」、「コミュニケーション」を社会に発信する NPO 法人。企業とのコラボによるおもちゃの開発なども行っている。東京おもちゃショーでは、タブレットを活用し、音感を鍛えたり、言葉を学べたりできる商品の展示等を行っていた。



成果・課題

- 【今後の関わり方】
- ・全国大会における研究討論会の内容にも依るが、全国大会の見学に来てもらったり、ワークショップの進め方等について意見をもらったりするのは良いと思う。
 - ・別途企画中の知育玩具(カードゲーム)のルールや対象の設定等に関して意見をもらいながら進めるのもあり得る。

添付資料

なし

D-6 公開会議

建設関連産業の活性化へ向けてのロードマップ
～中堅技術者が建設関連産業の魅力と将来を語る～

活動日程

平成 29 年 1 月 13 日

主催

対外活動 WG

参加者

嶋澤、光安、田ノ畑、近藤、中山

活動内容

- (公社)日本技術士会北陸本部「新潟県建設関連産業若手マンパワーアップ小委員会」及び「(公社)土木学会企画委員会若手パワーアップ小委員会」連携公開会議
会場:新潟大学駅南キャンパスときめいと

新潟県では建設関連産業の担い手不足が課題となっており、担い手育成の支援事業を展開しようと、平成 28 年 7 月に(公社)日本技術士会北陸本部にて「青年技術士委員会 新潟県建設関連産業若手マンパワーアップ小委員会」が立ち上げられた。

予てより同様の活動を行っている当小委員会とで連携し、業界の人材確保・人材育成・建設業界イメージアップに資する活動の取り組みをスタートさせた。

成果・課題

【プログラム】

第 1 部はコーディネーターを務められた新潟大学工学部大竹准教授の講演、第 2 部は各パネリストからの発表、第 3 部はパネルディスカッション形式で会場との意見交換も行う総合討論というプログラムで実施した。

【成果】

当日は定員 60 名の会場はほぼ満席となり、若手からベテランまでの聴講者を交えての活発な意見交換が行われた。また、新潟大学工学部の学生も多数参加し、学生の生の声も聴くことができた。

【課題】

総合討論での意見には、「建設関連産業へのイメージは親からの影響が大きいことや、大学生よりも若年層へのアピールが必要」とあり、イメージアップに資するPRの対象や方向性が明確になったと考えられる。



D-7 土木の未来を考える ～若手が創る新しい業界のカタチ～

活動日程 平成 29 年 3 月

主催 対外活動 WG

参加者 嶋澤、光安、田ノ畑、近藤、中山

活動内容

- (公社)日本技術士会北陸本部「新潟県建設関連産業若手マンパワーアップ小委員会」企画の研修会

「i-Construction」で私たちの仕事はどう変わるのかをテーマに、将来への「希望」について考える場とした研修会を開催した。
会場：新潟県技術士センタービル I



成果・課題

【プログラム】

国交省生産性革命の説明から i-Construction 適用第 1 号工事の紹介、ICT の活用の現状等について産官学の講演者による 5 講演で構成された研修会となった。

【成果】

繁忙期での開催ではあったものの、学生からベテラン技術者まで多くの方に参加頂き、活発な意見交換がなされ、連帯感の醸成から建設産業活性化の取り組みへの体制構築に資することが出来た。

ICT によりいわゆる 3K(きつい、きたない、きけん)から新 3K(給料アップ、休暇取得率向上、将来への希望がもてる)、さらには「カッコいい」と思えるイメージへの転換ができると思う。ICT は生産性向上だけではなく、業界イメージアップが可能。

【課題】

引き続きこれまでに挙げた「担い手確保」「人材育成」「業界のイメージアップ」での課題に対してより継続的かつ効果的な取組への発展が期待できる。また併せて、当小委員会では SNS を用いた情報発信の取り組みを行っていることから、引き続きこれらを活用して、より幅広い業界にわたる連帯感も深めていきたい。

本部

E-1 掲示板開設 (temporary)

活動日程 平成 27 年 8-9 月

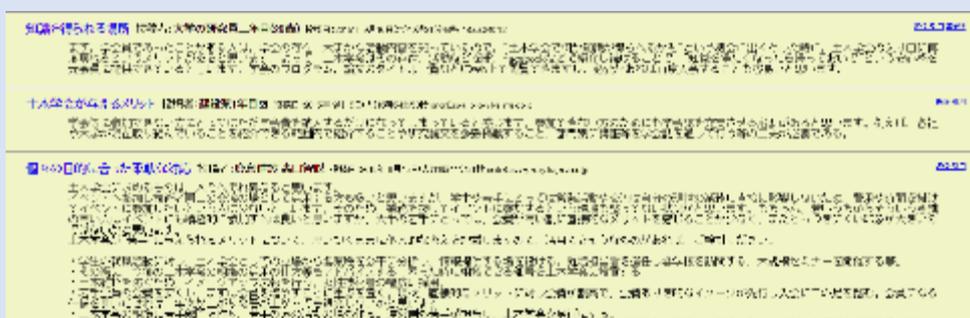
主催 本部

参加者 全員

活動内容

・ 掲示板開設 (temporary)

- ・平成 27 年度の全国大会において、全国の若手土木技術者から広く意見を募ることを目的として、外部の掲示板サービスを利用した。
- ・募集したテーマは「Q1:あなたにとって土木学会とは?」、「Q2:土木学会が与えられるメリットは?」。
- ・全国大会開始前から意見を募集し、大会当日にレビューを行った。



成果・課題

成果

・掲示板を利用することで、Q1:29 件、Q2:21 件と多くの意見を広く収集することができた。

・掲示板の URL は以下の通り

Q1:http://6224.teacup.com/doboku_q1/bbs

Q2:http://6259.teacup.com/doboku_q2/bbs

課題

・掲示板に意見を書くような人は意識の高い人である可能性が高く、土木技術者の意見をおしなべて収集できていないと言いがたいため、結果の取扱いに注意する必要がある。

・掲示板は Yahoo!知恵袋のように答えを求めて書き込むような形式ではないため、意見を述べた人に対するフォローが十分にできないという欠点もある。(掲示板の意見に対し討論会でこんな意見が出ました等のフィードバック等)

添付資料

なし

E-2 twitter 開設

活動日程

平成 27 年 8 月～

主催

本部

参加者

全員

活動内容

・若手パワーアップ小委員会 Twitter アカウント

・当小委員会では、日々の活動内容、イベント時のリアルタイム状況発信、テーマ毎の連載ツイートなど、土木=civil engineering を軸として、様々な形式で、人々の生活に役立つ土木の魅力を twitter というツールを使って発信している。

・メンバーでアカウントを共有し、話題がある人が自由にツイートできるような運用を行っており、本部(関東)以外からの発信も多い。



成果・課題

・Twitter 投稿
成果

- ・開設からこれまで(2017年5月10日現在)に、アカウントに対して累計 565 ツイート、638 フォロー、649 フォロワー、795 いいねを獲得した。
- ・土木関係者、一般の方から直接メッセージをいただくことも多くあった。
- ・twitter によるツイートがきっかけで生まれ、広がった出会いもいくつかあった。
- ・ツイートに対するリツイートやいいねも多くあった。

課題

- ・多くの若手の目に留まるよう、もっと学会 Twitter を広報する必要がある。
- ・twitter は文字数が制限されるだけに、ツイート内容によっては誤解を招くこともあるため、内容に関しては配慮が必要である。
- ・twitter は年配の方の目に留まらないという欠点もある。

添付資料

なし

E-3 Facebook 開設

活動日程 平成 28 年 8 月～

主催 本部

参加者 広報担当(田村, 岩村, 岩井, 橋本, 伊東)

活動内容

① イベントの案内・実況中継・報告 (twitter と連動)

- ・研究討論会
- ・プラタシロ
- ・若手パワーアップ塾
- ・技術士会北陸本部との連携公開会議 ほか

② SNS 企画の発信 (twitter と連動)

- ・若手技術者へのメッセージ
- ・若手パワーアップ塾ダイジェスト
- ・土木技術者倫理規定配信
- ・輝く若手と作業着
- ・土木の風景-海外編

③ 問い合わせの窓口 (メッセージ機能)

随時メッセージを受付

成果・課題

①～③のすべてが現在進行中

【成果】

2017 年 4 月 12 日時点の統計

- ・最大リーチ数(投稿が配信された人の数):
約 10100 回, 輝く若手と作業着(2017/2/14 公開)
- ・「いいね！」の数(全投稿についての合計):
288 件
- ・問い合わせ数:
2 件, いずれも当委員会との連携希望→連携実現

【課題】

- ・SNS の特性として, 古い投稿にアクセスしにくい点, 投稿をカテゴリや配信対象ごとに整理して表示できない点が挙げられる
- ・配信先の把握が困難である. 個人名では把握できるが, その方の所属や一般の方なのか土木業界の方なのかといったことがわかりにくい
- ・「いいね！」の合計に関しては 300 件弱でほぼ頭打ち状態にある. 更なる拡大を図るのであれば SNS 以外の媒体でも周知する必要がある

添付資料

なし

E-4 土木の日 2016 企画 ① 論説より若手へのメッセージ

活動日程 平成 28 年 10～11 月

主催 本部

参加者 伊東

活動内容

・ Twitter 投稿

土木学会 HP で公開されている論説から、若手向けのメッセージを抽出し、関連しそうな写真と合わせて投稿した。

成果・課題

・ Twitter 投稿

成果

- ・ 論説を抜粋することで、若手に届きやすくなった。
- ・ 写真についてのリツイートがあった。

課題

- ・ 多くの若手の目に留まるよう、もっと学会 Twitter を広報する必要がある。

E-5 土木の日 2016 企画②輝く若手と作業着

活動日程 平成 28 年 11 月～12月 **主催** (本部活動)

企画者 橋本麻未

活動内容

【目的】

- 「土木」にはどのような仕事(会社)があるのか、「土木」の仕事をされている方はどのような学部・学科を卒業しているのか、そして何より土木の仕事をしている方の輝く姿を、是非一般の方々に見ていただき、土木をより身近に感じていただく。

【活動内容】

- 委員会 HP、twitter、facebook での募集、公開
- 学会誌(2017 年 6 月号)への掲載

成果・課題

- 44 名の方に応募をいただいた。
- twitter のフォロワー、facebook のいいね！数が劇的に増加した。
- 各データから、「どぼじょ」への興味？が大きいことがわかった。

facebookリーチ数トップ5		
米花 萌さん	鹿島建設(株)	15,798
小松 有由美さん	(独) 鉄道・運輸機構	10,861
勝木安美さん	パシフィックコンサルタンツ(株)	10,682
内田加苗さん	清水建設(株)	9,435
鈴木 綾さん	東日本旅客鉄道(株)	8,537
facebookリアクション数(コメント、いいね、シェア)トップ5		
米花 萌さん	鹿島建設(株)	299
畑中昭人さん	鹿島建設(株)	146
内田加苗さん	清水建設(株)	120
勝木安美さん	パシフィックコンサルタンツ(株)	110
小松 有由美さん	(独) 鉄道・運輸機構	100
twitterインプレッション数トップ5		
勝木安美さん	パシフィックコンサルタンツ(株)	4,222
米花 萌さん	鹿島建設(株)	3,425
鈴木 綾さん	東日本旅客鉄道(株)	2,903
内田加苗さん	清水建設(株)	2,900
畑中昭人さん	鹿島建設(株)	2,664
twitterエンゲージメント数トップ5		
勝木安美さん	パシフィックコンサルタンツ(株)	370
内田加苗さん	清水建設(株)	205
米花 萌さん	鹿島建設(株)	153
本嶋太博さん	長崎県	148
野村直人さん	パシフィックコンサルタンツ(株)	136

※集計日:2017/2/20

E-6 土木技術者倫理規定配信

活動日程 平成 29 年 1 月～3 月

主催 (本部活動)

企画者 橋本麻未

活動内容

【目的】

土木学会の倫理規定設定は群を抜いて古い。若手技術者が土木技術者として誇りを持てるよう、倫理規定の配信をおこなう。

学会	制定年	制定項目	内容等
情報処理学会	平成 8 年	倫理綱領	情報処理技術が国境を越えて社会に対して強くかつ広い影響力を持つことを認識し、遵守する行動規範を規定。
電気学会	平成 10 年	倫理綱領	電気技術が社会に対して影響力を有することを認識して遵守する項目
電子情報通信学会	平成 10 年	倫理綱領	社会的責任、社会的信頼、品質保証、知的財産権、ネットワークアクセス、管理的立場にある者のなすべきこと等を規定
技術士会	平成 11 年	倫理要綱	技術倫理の普及として海外の技術倫理のテキスト等を翻訳出版する他、技術士の試験にも「適性科目」として技術倫理を科す。
日本建築学会	平成 11 年	倫理綱領・行動規範	倫理綱領は建築の社会的役割と責任を自覚し人々に貢献することを使命とするとし、行動規範も規定
日本機械学会	平成 12 年	倫理規定	専門性の保持、中立性の確保、機密情報の保持、不当競争の排除と広告の制限、品位の保持等を規定
土木学会	昭和 13 年	倫理規定	「土木技術者の信条および実践要綱」
原子力学会	平成 13 年	倫理規定	心構えと言行の規範等行動の手引としてかなり細かいことまで規定

出典：総合科学技術会議「科学技術基本計画（平成13年度～平成17年度）に基づく科学技術政策の進捗状況」（平成16年5月）表2-II-61

【配信内容】

以下の各規則を、国内の構造物の写真とともに配信。

- 土木公德 5 則(1936 年)
- 土木技術者の信条および実践要綱(1938 年)
- 土木技術者の倫理規定(1999 年)
- 社会資本と土木技術に関する 2000 年仙台宣言－土木技術者の決意－
- 土木技術者の倫理規定(2014 年)

成果・課題

【成果】

- 土木技術者倫理の再確認。
- 構造物の写真が「ダム」の時は twitter フォロワー数が増加。ダム愛好家の多さが目立った。

添付資料

なし

各支部

F-1 若手会員向け支部活動の収集

活動日程 平成 27 年 7 月～

主催 小委員会、各支部

参加者 各支部委員、委員

活動内容

- 第1回若手パワーアップ小委員会(平成27年7月22日開催)に先立ち、各支部委員にアンケートを実施し、各支部の若手会員に対する活動、イベント実施の事例を収集した。
- 収集した各支部の事例を、小委員会で発表した。

成果・課題

- 各支部とも、何らかの形式で若手会員に関係した支部活動を実施していることがわかり、活動内容を小委員会委員で共有することができた。
- 当小委員会の発足経緯にも関係した、「若手技術者の交流サロン」を実施している支部が複数あった。
- 「若手技術者の交流サロン」の他、各支部で特色ある活動を実施していることがわかった。そのうち、小委員会で成功していると認識された活動の代表例として、北海道支部「Visit(訪問)事業」と西部支部「ツタエルドボク Café」についてはさらに掘り下げて(F-3「支部活動成功事例集」参照)全国大会2015 研究討論会で報告することとした。
- 本活動により、支部活動の情報共有と広報の重要性が認識され、支部活動をリスト化しHPに掲載することで、継続的に支部活動を収集している。(F-4「HP にリスト掲載」(2015-2016 年度)参照)

添付資料

なし(F-2 添付参照)

F-2 支部内での課題、問題意識に関するアンケート

活動日程 平成 27 年 7 月

主催 小委員会、各支部

参加者 各支部委員、委員

活動内容

- 第1回若手パワーアップ小委員会(平成27年7月22日開催)に先立ち、各支部委員にアンケートを実施し、小委員会で報告した。

【アンケート設問】(関連項目のみ)

- 若手会員を対象とした活動および若手会員全般に関して、支部の中で課題や問題点はありますか。
- 若手会員の活性化に関して土木学会に期待することはありますか。

成果・課題

- 課題や問題意識を各委員で共有することができ、全国大会討論会の内容を議論するきっかけとすることができた。
- 支部内の中での課題や問題点について代表的なものを以下に列挙する。

- 学生会員が全会員の約1割と少ない。【北海道】
- 発表会等運営するスタッフは大学教員中心で年齢層が高い。【東北】
- イベント参加者が、開催部会に参加している先生の所属学校からの参加者に偏る。【関東】
- 本部から各支部に対し、ある程度の活動指針などがあったほうが活動しやすい。【中部】
- 特に公務員は、直接的関係が無いイベントへの参加は、年休取得する必要があり、参加困難。全国大会等の参加費用が職種・企業によっては自己負担となる。【関西】
- パネルディスカッションは、話題設定や事前準備に時間と労力を要し、毎年の実施は難しい。【中国】
- 特定テーマに関する詳細な議論より、浅く広くの内容で開催した方が参加しやすい。【四国】
- 倍率 10 倍超のイベントもあり、活動は成功している。一方で、さらなる活動については、費用と労力の点から難しい。【西部】

F-3 支部活動成功事例収集

活動日程 平成27年7～9月

主催 北海道、西部支部

参加者 中山委員(北海道支部)、杉田委員(西部支部)

活動内容

- 第1回小委員会で、各委員が成功していると認識した支部活動の代表事例として、北海道支部「Visit(訪問)事業」と西部支部「ツタエルドボク Café(潜入せよ！いのちをまもる謎の地下神殿)」についてさらに掘り下げて情報収集し、情報共有と問題提起の目的で全国大会 2015 研究討論会にて報告した。

1. VISIT事業とは

平成27年度の実施概要

実施日：平成27年8月21日(金)
参加者：一般学生13名、学生広報委員6名、広報幹事3名
見学場所：望月寒川、定山溪ダム
交流会参加者：入社・入庁5年目以内を中心とした12名



望月寒川改良工事現場

定山溪ダム

潜入せよ！ いのちをまもる謎の地下神殿

- 平成27年3月14日(土)開催
- 山王公園(札幌市東区)の地下にある雨水調整池を「地下神殿」に見立て、神殿内で様々な体験イベントを実施
- 対象は小学生とその保護者50組、計100名



- 事例紹介にとどまらず、成功要因や課題についても情報収集して報告することで、各支部で活動内容やイベントを考えていく際の参考となった。
- 研究討論会で報告することで、パネルディスカッションの話題提供となった。
- 成功要因や課題の一部

成果・課題

【北海道支部「Visit(訪問)事業」】

- 成功要因
受入(企業)側には、PR効果、優秀人材の発掘、参加(学生)側には、専門選択の参考、職業観・就労意識の形成・向上と受入・参加双方にメリットがある。
- 課題
本事業のみでの会員増強は困難。土木学会が学生のニーズを汲み取って活動していること、学会発表以外にも有益な取り組みを実施していることを広く知ってもらう必要がある。

【西部支部「ツタエルドボク Café」】

- 成功要因(50組限定に529組の応募！倍率10.58倍！)
土木技術者に加えて、新聞記者や広告代理店等ツタエルプロで構成業務多忙な年度末開催、手弁当での活動の原動力は何か？
⇒土木技術者のモチベーション向上、楽しめる活動、社外との交流

F-4 HP にリスト掲載

活動日程 平成 27 年度～平成 28 年度

主催 本部

参加者 各支部委員

活動内容

①HP に支部活動のリスト掲載

支部委員の収集した若手会員向け支部活動を当小委員会 HP に記載し、若手会員への情報提供を実施した。

2015 年度 11 件

2016 年度 23 件

成果・課題

【成果】

- ・若手会員向け活動の PR に寄与したと考えている。
- ・支部ごとの活動状況が確認できることにより、若手会員向けの活動企画の一助になったと考える。

【課題】

- ・支部活動も多岐にわたるため、支部委員の把握できていない活動も多いと考えられる。

【まとめ】活動終了

支部活動の企画については、各支部において興味深い活動が実施されており、参考として確認する必要がある。

広報活動については、土木広報センターが設置されたことにより、随時情報提供されている。

F-5-1 若手サロンへの参加（北海道支部）

活動日程 平成 28 年 1 月

主催 北海道支部

参加者 中山、橋本

活動内容

1. 若手技術者交流サロンに参加

- 土木学会北海道支部が主催し、北海道大学で開催された「若手技術者交流サロン」に参加。広報チラシも作成。
- ファシリテータとしてグループ毎のワークショップに加わり、若手技術者(大学生)と「土木の世界で働くとは」をテーマとして議論。
- 土木学会の活動をPRするとともに、将来を担う若手土木技術者の土木業界に対する意識や仕事観について把握。
- 土木業界の活性化に向けて、若手土木技術者のニーズを収集。

成果・課題

<成果>

- 大学生14名との議論により、将来の若手土木技術者の業界に対するイメージや仕事に対する想いを知ることができた。
- 土木業界に関して「きつい」「汚い」「古い」等の意見があり、いまだにネガティブなイメージが持たれている。
- 参加した学生は「市民の役に立ちたいが、苦情が怖い」「就活が不安」といった悩みも抱えている。海外希望者は、コミュニケーションスキルの獲得や、海外勤務中の家族との関係などに不安を持っている。
- 今の学生は仕事に対して高い意識を持っているが、一方で業界や仕事について十分な情報を持っていない人もおり、土木学会として学生の就職支援や社会人との交流機会の確保等が期待される。
- 平成28年度は未開催。平成29年度は、開催(参加)予定。

<課題>

- 参加した学生は14名と少なく、仕事や業界への意識が高い学生が多いため、残る多くの学生に対して更なる土木学会のPR活動・交流機会が必要。



F-5-2 若手サロンへの参加(中国支部)

活動日程

平成 28 年 1 月

主催

中国支部

参加者

佐竹委員、伊東幹事長、中国支部若手会員 21 名

活動内容

①若手会員講演会

講演①:経路探索システムのログデータを用いた交通特性分析

鳥取大学 桑野 将司 准教授

講演②:常時微動計測によるダムの振動特性評価について

中国電力株式会社 仁科 晴貴 氏

講演③:学会活動を通じた若手土木技術者の活躍フィールド開拓に向けて

土木学会若手会員パワーアップ小委員会 伊東 佑香 氏

②若手技術者座談会・懇親会

若手会員における土木学会とのかかわりについて意見交換

若手会員の交流促進

成果・課題

【成果】

若手技術者の研究事例について講演いただき、会場から活発な質疑応答があった。専門分野外の内容も多くあったが、初歩的な質問も遠慮なくできる雰囲気があり、有意義であったと思う。

座談会では、参加者同士の自己紹介・土木学会とのかかわりについて意見交換を行った。若手技術者が参加したいと思う交流サロンのあり方について、多くの要望を頂いたので、今後の活動に生かすことができると考える。

本部委員による講演・サロン参加により、支部活動への理解を深めていただいた。当小委員会の支部活動への積極的な参加事例であると考えます。

【課題】

普段交流のない若手会員同士の座談会企画は、議論を深めるまでに至らない場合が多いように思うため、固定メンバーによる複数回のセミナー形式等により、活発な議論が可能になると考える。

終業後の開催のため、開催地付近に勤務する会員に参加が限られるため、支部全体の活動としての参加者の確保に課題がある。

【まとめ】活動継続

若手会員の交流促進の場として、活動継続とした。

F-7 コングレスバッグ ロゴ選定

活動日程

平成 28 年 4-9 月

主催

東北支部

参加者

山田真幸(東北支部, 全国大会実行委員兼任)

活動内容

①活動内容

東北大学で開催された平成 28 年度 土木学会全国大会で参加者に配布されるコンgresバッグのデザインを本小委員会にておこなった。

②サイズ

平成 28 年 4 月の全国大会連絡調整会議に全国大会実行委員広報班として提案, 認証される。デザイン選定のプロセスは小委員会にて進め 6 月下旬にデザイン決定。

(パシフィックコンサルタンツ㈱) 村田友加里さん「Go to the next stage」

7 月下旬に発注。全国大会期間中に大会プログラムや他の書類と共に参加者に配布した。またこのロゴは交流会の鏡開きの際に使われた升にも用いられた。

成果・課題

会議バッグは 6000 作製, 製作費は全国大会実行委員会側で負担した。

全国大会の HP

<http://www.jsce.or.jp/taikai2016/prcollabo-logo.html>

にて本小委員会の活動として公開, 上記 HP は全国大会記録として保存される予定。

学会・研究発表会などのイベントでは, ロゴ等のデザインが必要になる場合があるが, 有償で印刷業者などに依頼している事がある様だ。

本企画ではこのような案件をうまく使ったことでデザインに要する費用の削減と関連した PR 活動の両方が実施できた。

ただし全国大会実行委員会との調整は費用と納期の制約においてほぼ余裕の無いものとなり, 納品が大会数日前であった。



なし

なし

F-8 支部講習会の企画

活動日程 平成 29 年 1 月

主催 中国支部

参加者 佐竹委員、中国支部若手会員 27 名

活動内容

①全国大会研究討論会の成果の実現

研究討論会の最優秀「講演会は出会い系」を支部講習会として企画・実現した。

若手技術者交流講演会として、講演内容は業界のうら話・仕事や働くことの意味・先輩技術者の失敗談として、中国支部支部長等の協力により、講演会を開催した。

②講演内容

題目:私の失敗談と教訓

講演者:一山コンサルタント

山下祐一

題目:私の転職

講演者:広島大学 土田 教授

中国支部支部長

北海道・東北・中国 G『講演会は出会い系』  最優秀

内容

- ・業界のうら話。仕事・働くこととは。
- ・失敗談を聞く機会。
- ・最先端の技術に関する講演。

形式

- ・TV,ネット配信などでも公開する。
- ・一か所に集まる必要はない
- ・集まって議論形式。受け身な姿勢を打開。

宣伝

- ・SNSを通じて宣伝。
- ・プラタモリなど有名なTV番組に取り上げてもらう。
- ・講習会の評価。食べログのような。

その他

- ・講習会参加に参加してTポイントを貯める。
- ・講演会で人と話す機会を増やす。
- ・講演会は出会いの場。

成果・課題

【成果】

全国大会研究討論会で、若手会員が中心となって構想した企画を、実現することができた。

講演内容は、先輩技術者の経験と転職となった事柄で、普段聞くことのできない貴重な話題であった。

【課題・まとめ】活動終了⇒別途企画

今後の活動として、集まりやすい実施時期・現地見学会実施などの提案があり、別途検討していきたい。